

活動の場所

横浜国立大学キャンパス



活動目的

環境に配慮したエコキャンパス創造のため、「横浜国立大学常盤台キャンパスマスタープラン2016」の「緑地管理計画」に基づき、環境に配慮した、広く社会及び地球環境と調和のとれたエコキャンパスの構築を積極的に推進する。特に自然知見に沿った機能配置の継承、潜在的自然植生を踏まえた環境保全林の維持など自然と共生した多様な外部空間を形成する。

活動内容

- ・「横浜国立大学常盤台キャンパスマスタープラン2016」*の「緑地管理計画」に基づき、当キャンパスの緑地の価値を有効に維持する（* http://shisetsu.ynu.ac.jp/gakugai/shisetsu/2campus/campus_keikaku/campus_keikaku.html）。
- ・YNU里山ESD BASEを通じて、横浜国大保土ヶ谷キャンパス敷地内の竹林から得られる竹を使った生物文化実習を行う。
- ・当地は1968年、1994年、2001年に詳細な植生調査を当時の教員学生らが行っている（藤間ら2001 <https://x.gd/e4gtF> 参照）。当キャンパスの自然と歴史については都市科学部環境リスク共生学科サイトの模擬講義にて学生市民に公開している（<https://www.cus.ynu.ac.jp/academic/video/dep/index.html#dep04>）。
- ・YNU社会生態システム拠点として、「都市の人々はどのような緑地をどの程度保全したいと考えているか」に関する調査研究を進めている。
- ・横浜国立大学キャンパスでは、2020年から2頭のヤギを使って除草実験を進めており、この取り組みは学生も参加している。（<https://www.ynu.ac.jp/hus/cus2/25962/detail.html>）。



学生有志の里山管理作業



飼育員（YNUヤギ部）と



横浜国大キャンパスの竹林調



蓮団子制作ワークショップ

PRしたいポイント

常盤台キャンパスは、横浜都市部に位置するにも関わらず古くからの森が残されており、希少な植物や在来植物が生き残っています。“ふるさとの木によるふるさとの森づくり”の原則により苗木で植えられた樹木と相俟って、現在の森を形成しています。緑地保全のため緑地区分を設定し、区分の特色に合わせた管理と、それを活かした活動に取り組んでいます。（横浜国大エコキャンパス白書 http://shisetsu.ynu.ac.jp/gakugai/shisetsu/4kan_mane/ecocampus/hakusyo/eco_campus2022.pdf 7頁）

活動効果、今後の展開 等

- 横浜国立大学ユネスコチェアEBRoSS（<https://ebross.ynu.ac.jp/>）として、SDGsを理解する野外実習等を行う。
- YNU里山ESD BASE（<https://satoyama-esd.ynu.ac.jp/>）として、生物文化多様性保全のために活動する。
- YNU社会生態システム拠点（<https://nbs-initiative.ynu.ac.jp/>）として自然に基づく解決の視点から調査研究を進める。
- YNU エディブルガーデン・エディブルキャンパス(<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000118.html>)活動。
- これらの諸活動を踏まえ、企業、外部団体と連携して本学キャンパスの「自然共生サイト」登録を検討する。